

『藍を継ぐ海』 直木賞受賞記念特別講演会 文学が紡ぐ地域の未来

【日時】 令和7年 **5月31日(土)**

【開場】 13:30

【開催時間】 14:00～16:00

【会場】 四国大学交流プラザ5階フォーラムホール

(徳島市寺島本町西2丁目35-8 ホテルグランドパレス徳島の正面)

※会場に駐車場はありませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

【参加定員】 先着200名 (申込不要・参加費無料)

※参加者多数の場合は、4階第2セミナー室において配信映像をご視聴いただきます。

【講師】 直木賞作家 伊与原 新 氏

● 概要

四国大学交流プラザ5階フォーラムホールにおいて、四国大学100周年記念特別企画として、直木賞作家伊与原新氏をお招きして特別講演会を開催したいと思います。

第一部は伊与原氏講演会として、『藍を継ぐ海』創作のきっかけや背景、苦労された点などをお話いただきます。地方の特色がどのようにして文学作品に描かれていくのか、また小説の題材がどのようにして文学作品として昇華していくのか、小説に込めた思いなどについてご講演を賜ります。

第二部は四国大学日本文学科の学生たちにも登壇してもらい、小説の書き方や向き合い方、文芸作品が人々にもたらす影響などをめぐって伊与原氏とのパネルディスカッションを行います。

● 伊与原 新 (いよはら しん)

1972年、大阪生れ。神戸大学理学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科で地球惑星科学を専攻し、博士課程修了。2010年、『お台場アイランドベイビー』で横溝正史ミステリ大賞を受賞。2019年、『月まで三キロ』で新田次郎文学賞、静岡書店大賞、未来屋小説大賞を受賞。2024年、『宙(そら)わたる教室』が第70回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(高等学校の部)に選出、NHKでドラマ化され話題となる。2025年1月、『藍を継ぐ海』で第172回直木三十五賞を受賞。他の著書に『八月の銀の雪』『オオルリ流星群』『青ノ果テ 花巻農芸高校地学部夏の夏』『磁極反転の日』『ルカの方舟』『博物館のファントム』『蝶が舞ったら、謎のち晴れ 気象予報士・蝶子の推理』『ブルーネス』『コンタミ 科学汚染』などがある。



提供 新潮社

『藍を継ぐ海』 作品紹介

ウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。長崎の町役場への面倒なクレーム電話をきっかけに、謎めいた空き家にたどり着いた公務員。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男。都会から逃れ移住した奈良の山奥で、ニホンオオカミに出会うwebデザイナーの女性――。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。さきめく全五篇。

(新潮社公式HPより引用)



つむぐ、つながる、はばたく
SHIKOKU UNIVERSITY
1925・2025 100th Anniversary

主催 四国大学学際融合研究所 新あわ学研究部門
協賛 四国大学文学部日本文学科

問合せ先：四国大学 学部運営支援課

Tel 088-665-9909 (平日9:00～17:00)